八

へ13
3223
51

為永春水作
八犬傳九編
一勇斎國芳画
吉弥永三枝板
九編上
九編下

特へ13
3223
57

一事為万事成
為万事成作

ハちゝん 傳下



夫長きものハ短き物まゝ大いなるものゝ小と兼ぬ。ものさゝのうつゝ長き世ハ。長弓の槁の長き。と君う齡ひと長濱の。鶴の千歳ハ。るるマンど。長き物さゝろとゝ詞ゆゝて山鳥の尾の長きさゝるゝ。南極星の。天窓の長き。吸付莨の長焔管。丸の返辞と樋竹賣見。ハ限ハ。の長き紙ようとゝ。別て女中の長話ハひいて駒下駄の踵をうち。角前髪の長振袖ハるびいて柳の風姿をうゝへ小ハ潮来の字あるりぶー。そちりとんざ長文句もゝづれ當世小ハ。の松長き栄へゆく。毛も余沢と僕ゞ。長編ゝ筆を採り。ハ才ハ延ものさ。鼻の下谷の草番ハ。春の長き日ゝ。ゝ。ゝも看官の。長き咲ひよそゝ。

嘉永二酉仲春稿成
同　三戌孟春新鐫

延蛇崎十郎

仁
伏姫神霊
犬江親兵衛仁

月参講中
月講中

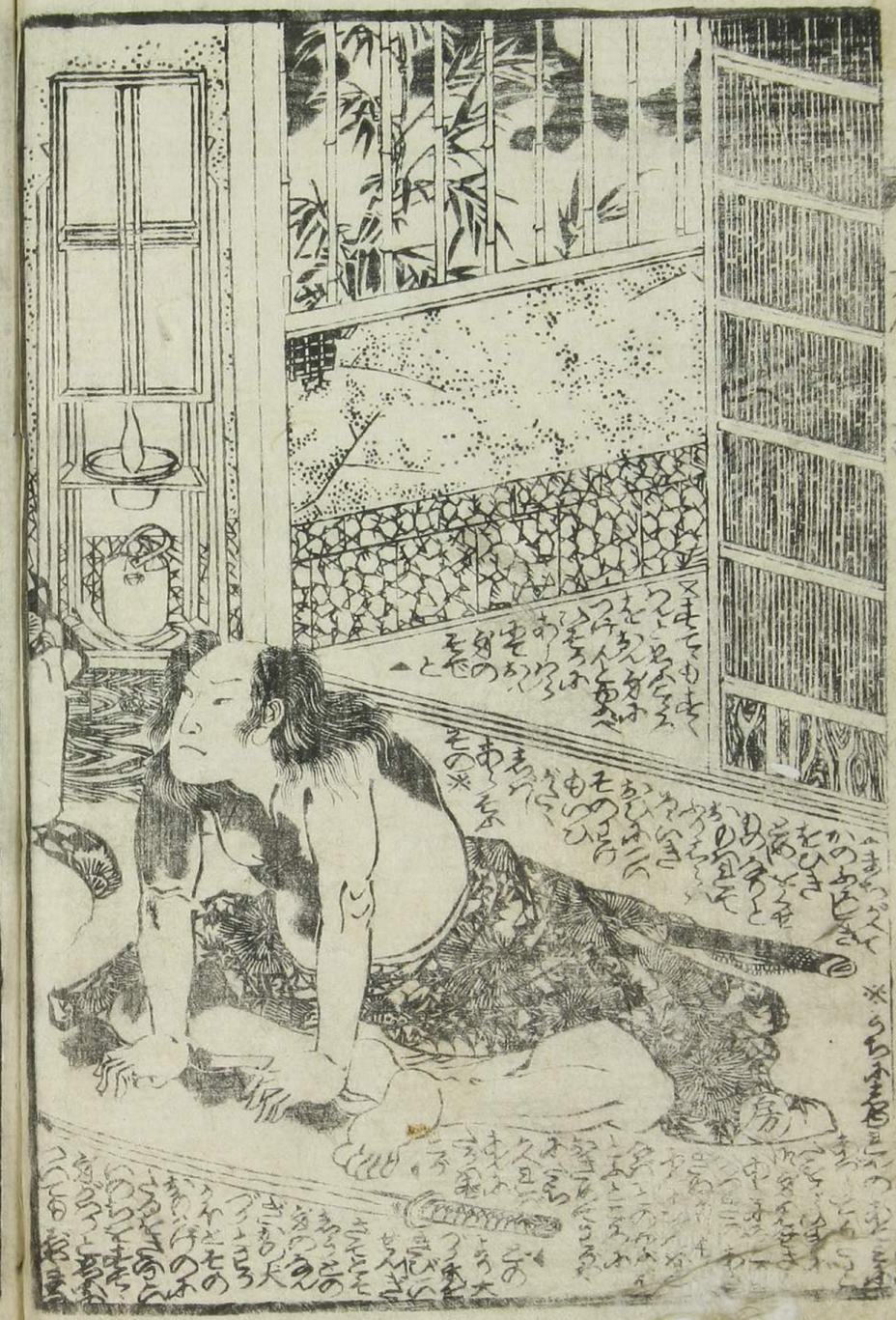
大形左

八犬傳九編
席
孟

房
小

古那屋

舩帳
大江屋
大福



國芳画

三
信

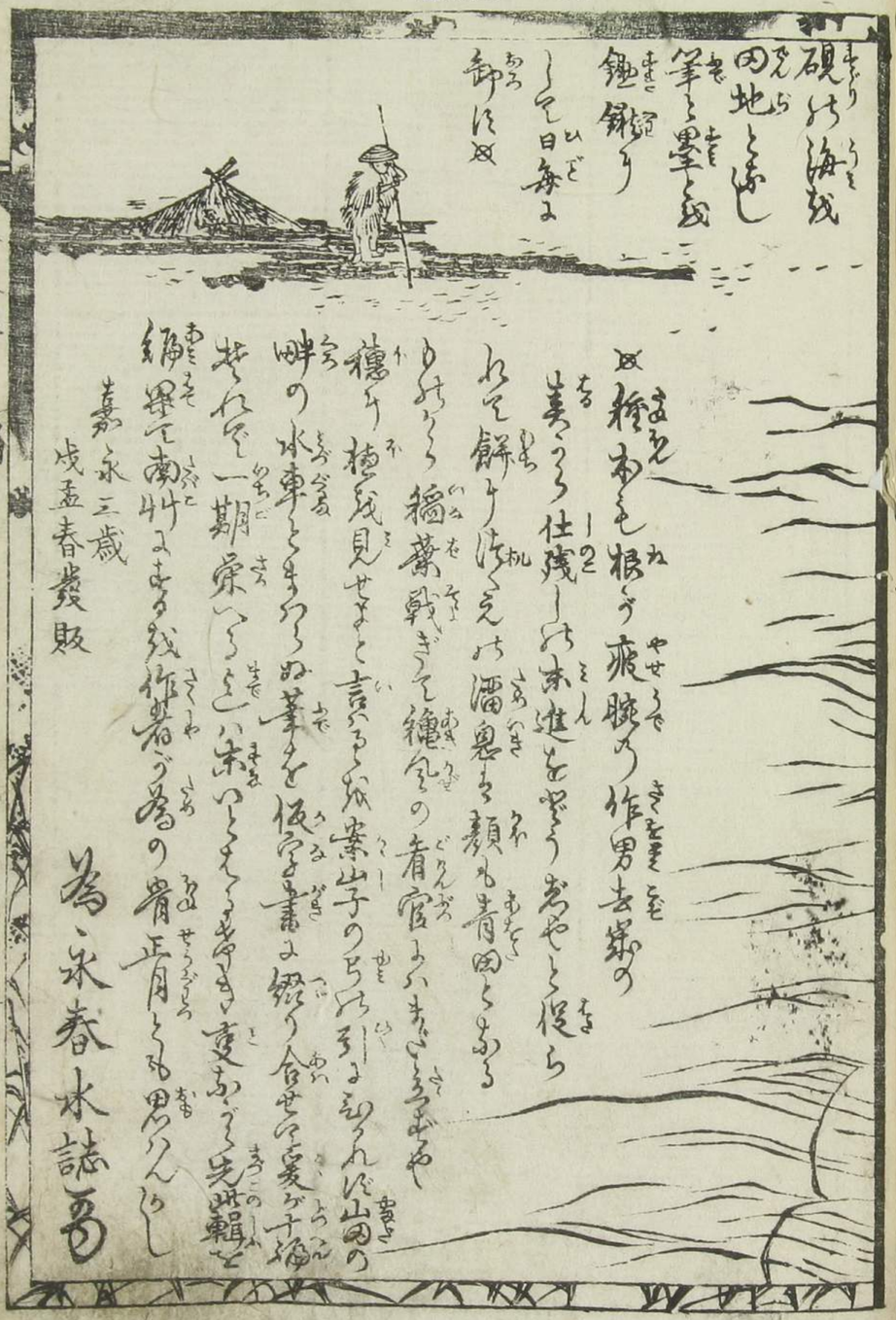
御泊宿

信

六那屋
小
信
現
姉

八犬傳外編
一勇齋國芳画
このおちみ
八犬傳
九ヤ亭
東西
作
國芳
画
文渓堂

善水作
八犬傳十編
國芳画
十篇上
十編下
嘉永三庚戌春新刻



硯は海浜
田地とし
筆と墨と紙
鍬鎌より
して日毎に
御に

※稲は
米とする仕殘しは
わて餅は法えは酒臭き顔も青田とする
もちろん稲葉戰ぎて繩金の青官ふ
穂は殘見せまと言ふる案山子のちちりよ
畔の水車とまわる
世わて一期栄
編笠は南竹とまる殘作者の者青とも男ふ

嘉永三歳
戊孟春農販

為永春水誌



# 為永春水作人情本

文溪堂梅玲

為永春水作
一勇齋國芳畫

拾遺

單節
十條
尺八郎

十條
力二郎
曳手

# 春水作　國芳画

現
信

現
小
三口

現
信

社
町
菴

為永春水作
一勇斎國芳画
八犬傳
十箱
文溪堂